

道路管理者からのお願いです!

「雪氷作業車にご注意ください」

ドライバーの皆様へ

見つけたら追い越さない!

三陸道上で雪氷作業車を見つけた場合は、**安全のために十分な車間距離をとり、作業車を追い抜かずに走行していただくようお願いいたします。**作業車の後ろは路面が整備されていますので、雪道・凍結路に比べて安全に走行できます。




車間距離を十分に!


凍結防止抑制剤散布車に近づきすぎると、凍結防止剤がお車にあたる可能性がありますので、**車間距離を十分にとって走行してください。**また、凍結防止剤が散布された路面や、雪氷作業車の後ろを走行したあとには、お車に塩分が付着することがありますので、ご利用後は洗車をお願いいたします。



凍結・積雪時は時間にゆとりをもち運転しましょう!

宮城県警察高速道路
交通警察隊

 国土交通省
三陸道維持出張所

 宮城県道路公社
仙台松島道路管理事務所

三陸道「冬道の注意ポイント」

Q1 冬の三陸道はどうして注意が必要なの？

A1 場所や時間によって路面状況が変化します！

冬の道路状況は、走行する時間帯や場所など、様々な要素によって変化します。三陸道上で特にタイヤが滑りやすい要注意ポイントをしっかりチェックしておきましょう。

橋の上やトンネルの出入り口

橋の上やトンネルの出入り口などは他の場所よりも気温が低くなり、路面が滑りやすい危険な場所です。こういった場所に差し掛かりそうな時は、手前で十分にスピードを落としておき、いつも以上に注意して走行しましょう。

朝晩の時間帯

昼間は路面が濡れているだけの状態でも、夜になって気温が下がると滑りやすくなります。気温が下がる朝晩の走行は昼間とはまったく状況が違ふと考え、十分に用心しましょう。

出発時は積雪が見られなくても、場所や時間などの条件が変われば路面状況も刻々と変化していきます。今は晴れているから、気温が低くないからと油断せず、路面の状態に注意しながら走行してください。



Q2 どんなことに注意すればいいの？

A2 路面の状態を知って、状況に応じた運転をしましょう！

冬の三陸道の路面にはいくつかの種類があり、気をつけるべきポイントもそれぞれ違います。路面の状態を正しく把握して、状況に応じた運転を心がけましょう。

固まった雪やシャーベットに注意

積もった新雪が踏み固められて出来る「圧雪」路面は、冬用タイヤを装着していれば走行できますが、普通の路面より滑りやすいため注意が必要です。一方、比較的気温が高い時に雪が降った場合は圧雪にならず、水分を多く含んだシャーベット状の路面ができます。この場合はとけかけた雪にハンドルが取られて滑りやすくなるため、慎重な走行が必要になります。

路面が黒くても安心してはダメ！

さらに、雪がとけてその水分が再び凍ると、積雪路よりさらに滑りやすく危険な「アイスバーン」という凍結路が出来ます。なかでも最も注意すべきなのが、道路表面が凍って黒く見える「ブラックアイスバーン」。積雪や通常のアイスバーンの場合は路面が白く見えますが、ブラックアイスバーンの場合は単に路面が濡れているように見えるため、凍結に気付かないことが多いので非常に危険です。路面が黒く見えても決して安心してはダメ、細心の注意を払ってください。



冬の三陸道では雪氷作業車に注意 こんな状況に遭遇したら

Q 作業中の車を見かけたけど、何をしているの? (*´д`)??

A 凍結抑制剤の散布や除雪作業をおこなっています。

気温が下がって路面凍結の恐れがある時や雪が降った時は、雪氷作業車が2～3台編成で走っていることがあります。50キロ以下の速度で除雪を行います。

作業中は速度低下により最後尾では渋滞が発生しますのでご理解・ご協力をお願いします。

冬期の雪氷作業についてご紹介します。

凍結防止剤散布作業



路面の凍結を防ぐために、凍結防止剤（固形の塩や塩水などの塩分）を道路に散布しています。凍結防止剤散布作業は、気温が下がり始める前に出動します。

除雪作業



安全な路面状態を確保するため、前面にスノープラウ（板状の除雪装置）がついた作業車で除雪作業を行っています。

降雪や視界不良に伴う通行止めのときは？

通行が危険と判断され、三陸道が通行止めになる場合があります。その際は、最寄のICより一般道への迂回をお願いします。

晴れているのに通行止めとなるのは？

数キロ先が吹雪や降雪による視界不良・スリップ事故発生のためです。情報はラジオや情報板などで早めにご確認ください。